



「朝鮮半島南部の移住漁村『日本村』に関する調査研究」

科学研究費による基盤研究A（代表 崔吉城）

ニュース・レター No. 2

発行日：2007年9月10日

2007年8月18日

釜山近代歴史館観覧

「日帝の釜山収奪」

支配機構、貿易と商業、農業
工業、水産業と海運、金融、
人力収奪、物資収奪

「日本人の墓」

釜山市立公園墓地

金剛公園の岩壁に刻まれた
「皇紀2600年記念碑」調査

韓国「日本人村」調査



「日本人の墓」



「皇紀2600年記念碑」

「日帝残滓清算」の政策にもかかわらず、釜山地域にはその残滓が残っている。釜山近代歴史館はそれを展示している。ただ植民地時代を「収奪」の時期と表現しおり、また説明のスピーカーからは日帝蛮行や収奪などと表現しているが、展示は客観的になされている。



磯永和貴



2007年8月19日 19-21時
アリランホテルで研究会

「麗水と巨文里の景観」

植民地の集落景観を都市である麗水と村落である巨文里について、麗水会の河井勇氏と崔吉城、中村均氏と巨文島会の共同作成の復原図をもとに検討した。1934年に日本は市街地計画令を施行したが、地域区分の設定は京城だけであった（孫禎睦『日本統治下朝鮮都市計画史研究』）。しかし、麗水では西町に金融、中央行政機関、寺院、旅館、病院、製造業が、東町に行政、教育機関、製造業が区分されていた。また、東町に初期移住者の漁村が置かれ、後に市街地計画が施され西町へと発展した。麗水景観は、日本の地方都市と極めて共通している。日本人移住漁村の巨文里では、漁業、商業、公共、造船・漁業と職業による四区分がみられた。また、初期に移住した木村忠太郎を中心とする山口県出身者と、後に移住した四国、長崎県出身者たちとの二分する居住区分がみられた。巨文里の景観は日本漁村の生き写しであるが、職業と出身地による居住区分あるのが特徴である（2ページ地図参照）。

2007年8月20日

- ◇ 「入佐村」(巨済島長承浦洞新富街)の神社跡の鳥居は切断されて踏み台になっている(右の写真)。
- ◇ 漁村記念館では漁船の模型など見学



巨済文化院事務局長姜永奉氏(中央)の案内で神社の階段を登る

2007年8月20日 9-21時

麗水アミガホテル

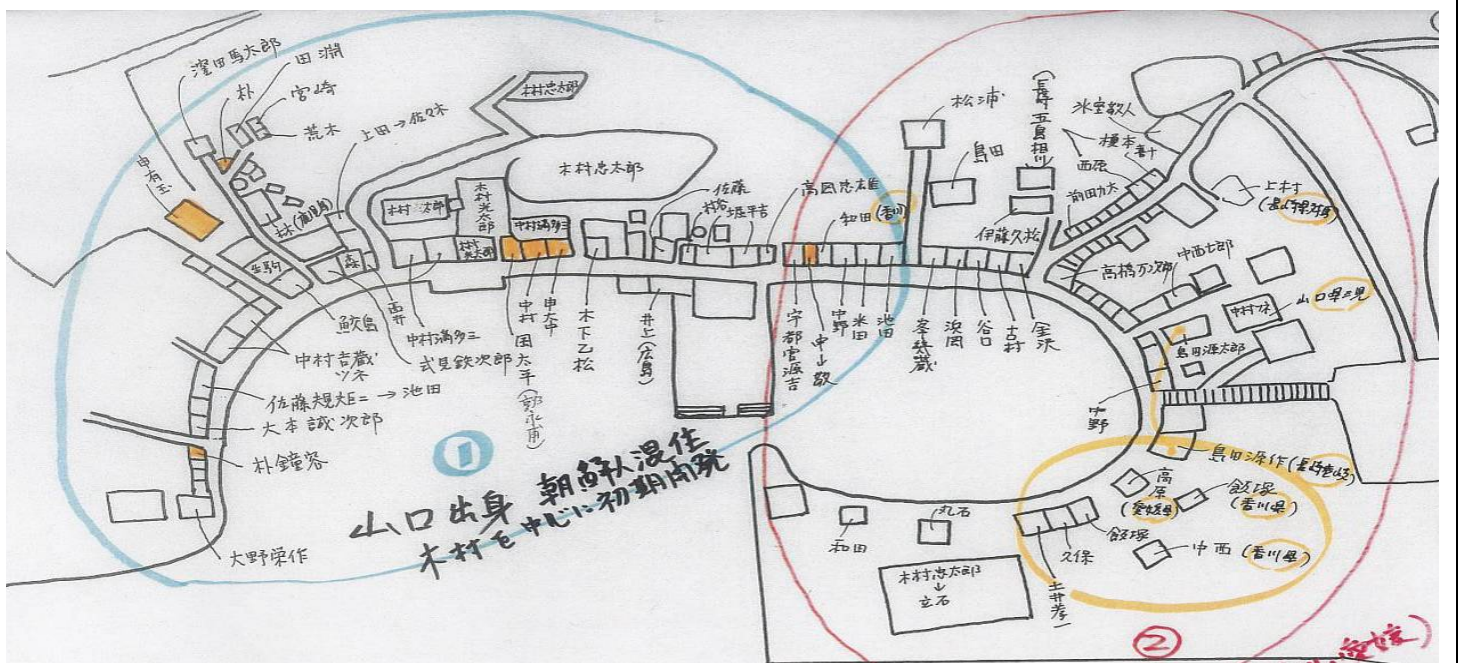
- ◇ 裴樹奐(元群山大学教授)
- ◇ 金鶏有(郷土史家)



裴樹奐「日帝時代下の海苔養殖」

大部分の日本人観光客は、韓国のお土産として海苔を買う。これは他の国の観光客にはない風景である。崔は、中国やロシアに海苔をお土産にもって行って失敗したことがある。裴樹奐氏は、世界中海苔の文化は日韓両国しかないと言い切った。海苔文化とは広くワカメ、昆布などとともに食材、料理法、食べ方、儀礼など関わることを意味する。ワカメや昆布などは他の国でも食べるが海苔は日本と韓国に限る。

日韓合併後、日本の商人たちは朝鮮海苔の質が良いことを知って、製造技術を指導して日本人の口にあうように改良し輸出した。朝鮮総督府は、海苔漁業組合に補助金を出して育成した。このように日本の市場によって韓国の海苔養殖は繁栄した。しかし、敗戦とともに韓国の海苔業は衰退した。最近、日本人の観光客が急増するにつれて活気を戻すようになった。



2007年8月21日

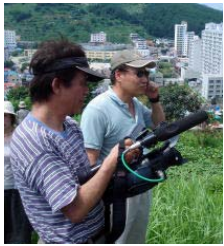


元三山面長の朴鐘山氏



調査団員たちは、巨文島の神社跡（左の写真）、中吉旅館、学校、イギリス人墓などに行ってみた。特に神社の跡、イギリス人墓が美化されているのが目立つ。朴鐘山氏と副面長の馬光憲氏は、それらが観光資源になって年間20万人くらいの観光客が訪ねてくると語った。

2007年8月22日



北村皆雄氏（左）



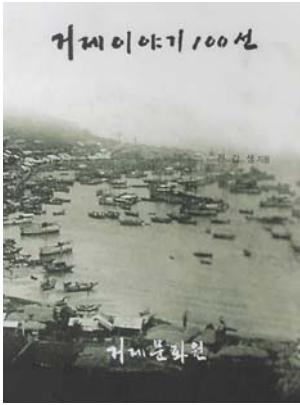
申轍安氏（中央、83歳）

「映像で懐かしむ」談話会

巨文島老人亭で1980年代の写真と、北村皆雄氏が撮影して、1992年にNHKで放映された映像を観ながら住民と談話した。彼らは時々歓声を上げ、懐かしく思い、画像を指しながら説明したりした（下右の写真）。朴道淵氏（女、81歳）は写真の中から自分を見つけて喜んだ。北村氏が老人亭にDVDを寄贈した。（左の写真は堀麗子氏が面長の崔炳満氏と握手）



調査を終えて巨文島を離れる直前の調査団



田甲生 著
『巨済の物語 100 選』
巨済文化院、2000

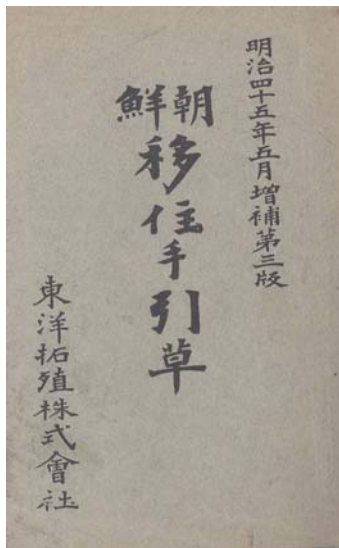
巨済島長承浦 1 区の新富村は、植民地期以前の 1904 年にこの漁村を開拓した入佐清静氏に因んで名づけられて「入佐村」と呼ばれた。雑貨屋、料理・食堂、遊郭、銭湯、食料品店、質屋、医院、日本人会、尋常高等学校、水産物市場、郵便取扱所、巡査駐在所、金毘羅神社などがおかれ、特に漁業が盛んになり豊かになった。この村の神社跡の鳥居は、現在市行政員によって切断されて壁の柱や踏み台になっている。中央洞には 1907 年に創立された日本人の納骨堂があり、骨壺がそのまま放置されている。



1980 年代の「入佐村」(23 頁)



骨壺 (40 頁)



- ◇ 移住民は朝鮮に永住土着して自ら農業を営むものに限る。朝鮮人は広い面積の土地を極めて粗末に耕作するので、模範を示して従来の粗雑な耕作方法を改良して収穫の著しく増加する事実を覚えさせる。付近の鮮農を誘って朝鮮人を指導し、農事の改良、土地の開発、地方経済の発達を図る。
- ◇ 移住当初の決心を忘れず、協同一致、勤儉貯蓄を持って農事を励んで、酒色に溺れ、悪臭に染まらず、朝鮮人に対する模範として立つこと。特に冬期は農事が暇であるから、飲酒、賭博などの悪風に染まりやすいから決してこのようなことに手を出さず、娯楽はすべて高尚なるものを選ぶべきである。移住民は朝鮮の農業を開発するにあたり、朝鮮農民の兄姉の生活がたつように考え、互いに相親しみ和合して、懇篤にこれを指導するよう日常深く心得ること。
- ◇ 朝鮮人は、最初日本の愛知県より多数の移民来往し、耕地を奪われて職業を失うように誤解し、疑うものも多かったが、少しも反感の念もなく歓迎する地方も多い。元来朝鮮の農民は一般に質樸温和、愛撫さえすれば同化する国民である。

研究組織

研究代表

崔吉城 (東亜大学教授、広島大学名誉教授)

研究分担者

原田環 (県立広島大学教授)、木村健二 (下関市立大学教授) 鈴木文子 (仏教大学教授)
 榎田宏治 (東亜大学教授)、上田崇仁 (徳島大学准教授)、磯永和貴 (東亜大学准教授)
 竹本正壽 (東亜大学教授)

研究協力者

上原雅文 (東亜大学教授)、藤井賢二 (姫路市立高校教諭)
 山田寛人 (広島大学非常勤講師) 以上日本

外部協力者

李文雄 (ソウル大学校名誉教授)、呂博東 (啓明大学校教授)、崔仁宅 (東亜大学校教授)
 徐惠卿 (全州大学校教授)、張龍傑 (慶南大学校副教授)、崔錫栄 (公州大学校非常勤講師)
 李良姫 (霊山大学校教授)、金秀姫 (金泉大学校非常勤講師)、鄭鴻基 (フリーレンサ)
 北村皆雄 (ヴィジュアルフォークロア代表)

